

# 学習フィードバックシート

プロジェクト名：ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」 を  
ハードウェアから開発する

グループ名：GroupA

担当教員名：三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行

学籍番号 1018103 氏名 藤内 悠

## 1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	8 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	8 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	9 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	9 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	7 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	12 /20	標準 14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	16 /20	標準 14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	79 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

## 2.理由

私は後期の活動において出席に関しては活動する日と定められていた日は必ず参加し学内の施設を利用する際にも事前に確認をとったうえで遅刻なく参加したため 10 点の評価を付けました。週報では個人の分は必ず毎週欠かさず出していましたがグループ単位の報告書は最終成果発表の前後で一度忘れてしまったため 8 点としました。グループ報告書に関してはグループ内で決めた個人の範囲を不可欠とされる内容を記述した上でさらに必要な情報も加筆しましたために自己判断で上の点数を付けました。発表会では主にメインポスターの製作を担当し前期の内容を踏まえた状態でわかりやすいポスターの製作ができたと思い、また発表後の評価も高い点数をいただいたため 9 割としました。反面、後期に入り実際に工房で人数を制限された状態となると個人で進めてしまう傾向が強くなりプロジェクト内で課題の共通や定期報告での意見交換は行いましたが前期と比べるとその取り組みが少ないと感じたため標準点を付けました。また大学構内では個人の作業を行うことが増え作業分担という点では偏りが生まれてしまったように思うため標準より少し低い 12 点を付けました。成果としては計画していたものからはやや変化しましたが十分なものができたと思うため標準点に少し加えた点数としました。

## 3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 伊藤 壱 :

積極的に機構設計案を出してくれてとても助かりました。藤内君の二次元、三次元問わずに製図ができる能力や、レーザーカッターや 3D プリンターの技術力のおかげでロボットを完成させることが出来たと思っています。

サイン \_\_\_\_\_

コメンター氏名 木島 拓海 :

このコロナウイルスの影響下であるが、2DCAD から内部機構の設計・修正し、限られた工房利用でも計画的にレーザーカッターや 3D プリンターを利用し藤内くんはロボットの製作に大きく貢献してくれました。

サイン \_\_\_\_\_

コメンター氏名 宮嶋 佑 :

外観に合わせて、内部の機構の大きさ動きなど試行錯誤してもらいました。首の動きを実現する部分では、私が思いつかないようなアイデア、機構を多く考えてくれました。

サイン \_\_\_\_\_

### 3. 担当教員によるコメント

三上貞芳  
教員サイン \_\_\_\_\_

鈴木昭二  
教員サイン \_\_\_\_\_

高橋信行  
教員サイン \_\_\_\_\_